令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城東中学校

４月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日（木）

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

（1） 教科に関する調査（国語、数学）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（2） 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

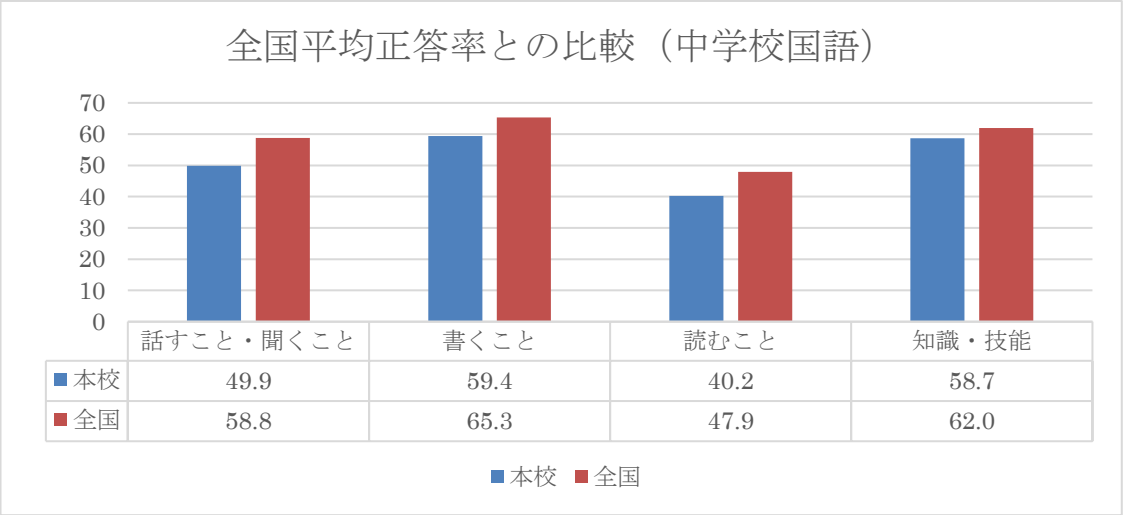
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣、家庭学習の状況　など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況　など

■調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学６年生・中学３年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

１ 国 語



	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能
本校	49.9	59.4	40.2	58.7
全国	58.8	65.3	47.9	62.0

(1)結 果

全ての領域で全国平均をやや下回っています。「言葉の特徴や使い方に関する事項」では県平均をやや上回っています。「思考・判断・表現」の力の、「書くこと」では、県平均との有意差は殆どみられませんでした。

(2)成果と課題

今回の調査では、話すこと・聞くことや読み取りの力について顕著な課題がみられました。ただ、日頃から漢字の書き取り練習や単元の確認テストを行っているため、表記の問題については徐々に力が付いていると思われます。また、韻文の表現の工夫については正しく解答している生徒が多くみられました。知識や技能を身に付ける上では自分なりに努力していますが、自分の考えをまとめて適切に表現したり、他者の考えの要点を捉えて理解し、適切に返したりする力が不足しています。

今後、話し合いや表現などの言語活動の中で、生徒相互の考えを引き出し、それらをつないでいく際に、表現内容が適切なものかどうかを相互に確認し合う場面を多く設定していく必要があると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○自分の意見や考えを持ち、その根拠を明確にしながら、相互に意見を交換して考えを深める場面を日々の授業でできるだけ多く設定していきます。

○理由や根拠を説明するときに分かりやすく相手に伝わるように表現できるように、比較したり関連づけたりしながら表現する方法を身に付けられるような授業展開を工夫していきます。

○自ら学習課題を設定したり、学び合いの中でお互いを高め合ったりするような、主体的な学習への取り組みを促していきます。

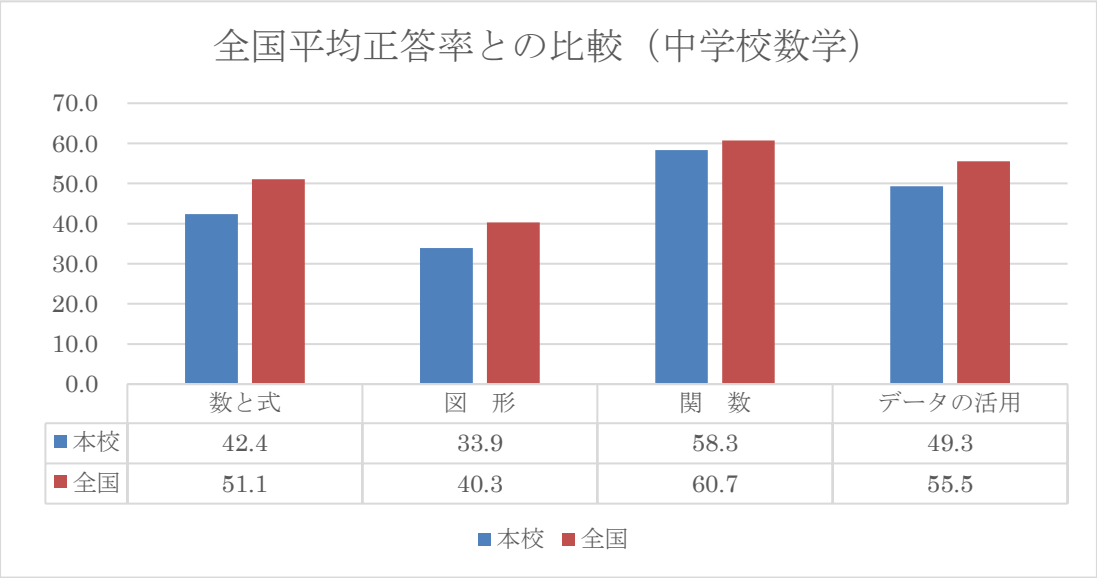
○家庭学習の目的や効果的な方法について伝えていきます。

【ご家庭では】

○普段から身近なニュースや周囲のいろいろな出来事などについて「自分の考えを持ち」「話し合う」ような家族のコミュニケーションを大切にしてください。その際「イエスかノーか」などの短答式ではなく、会話が広がるような言葉かけをお願いします。

○映像だけでなく、たくさんの「活字情報」が身近にある環境が「考える力」を伸ばすことに役立ちます。忙しい中でも、親も子も「活字に触れる」機会をできるだけ増やしたいものです。

2 数学



	数と式	図　形	関　数	データの活用
本校	42.4	33.9	58.3	49.3
全国	51.1	40.3	60.7	55.5

(1)結　果

全ての領域で全国平均をやや下回っており、図形分野と関数分野では県平均をやや上回っています。問題別の無解答率を見ると、ほぼ全ての問題で全国平均より低くなっています。

(2)成果と課題

今回の調査では、「C 関数」の領域の、一次関数の式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかを見る問題では正答率が全国平均を上回っています。

しかしながら、「A 数と式」の領域の目的に応じて式を変形し、事柄が成り立つ理由を説明する問題や「D データの活用」の領域のデータの分布の傾向を比較して読み取り、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が全国平均を下回っていました。

今後、データの活用の領域では複数のデータを比較し、さらに結果や考察を数学的な表現を用いて説明するなど記述式の問題ができるようにすることが重要であると捉えています。

(3)学力向上のための取り組み

【学校では】

○与えられた資料から必要な情報を適切に読み取ることや、問題解決の方法を数学的に説明する場面を、日々の授業で設定します。

○様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式やことばを使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

○ＴＴ指導、プリントやワークの活用、週末課題、小テストや単元テストなど、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

○お子様の週末課題などの宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。

○数学が好きになるには、解ける喜びを感じさせることが有効です。簡単な問題から取り組み、成功体験を増やしていくことで興味関心が向上することが考えられます。また、積み重ねも必要な教科ですので、短時間でも毎日継続して、ワークなどの課題に取り組むことも大切です。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結　果

※「当てはまる」「どちらかで言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

≪生活習慣・自己肯定感・規範意識について≫

調査項目	本校　%	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	77.9%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	38.9%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	56.8%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	30.5%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	30.5%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	65.3%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	74.2%	77.5%

起床・就寝については、全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが身に付いている生徒が多いです。今後も家庭と学校で協力して、習慣化に努めていければと思います。

自己肯定感、規範意識は全国平均を下回っています。「出番・役割・承認」を意識した取組をすすめ、自己肯定感、自己有用感の向上を図っていきます。

≪家庭学習の様子≫

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「３時間以上」	3.7%	9.2%
「２時間以上、３時間より少ない」	24.2%	22.5%
「１時間以上、２時間より少ない」	20.5%	32.6%
「３０分以上、１時間より少ない」	26.8%	18.4%
「３０分より少ない」	13.2%	10.4%
「全くしない」	10.5%	6.6%

家庭学習については全国平均を下回っています。１時間未満の生徒が５割以上おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

○学校教育目標「夢実現◇成長の根幹づくり」に向け、学校教育活動全体において、個に応じた出番・役割を設定し、生徒の頑張りや成果を承認しながら自己肯定感や自己有用感を高めていきます。また、将来への見通しを持つことができるようにキャリア教育の充実を図っていきます。

○家庭学習習慣の定着のために、自主学習ノートの効果的な取り組み方や学習用タブレット端末を活用した学習への取り組み方について丁寧に指導していきます。

【ご家庭では】

○会話の中で、「将来、何になりたいのか」「どのような職業に興味があるのか」など、お子様の願いや考えをじっくり聞いたり、話し合ったりする機会を増やしていただければと思います。

○規則正しい生活を習慣化し、家庭学習を定着させることは大切なことです。「家庭学習の手引き」を参考に、自分で決めて学習に取り組むことができるように、励ましや称賛の言葉をかけてください。